



FARONICS  
**ANTI-EXECUTABLE™**  
ENTERPRISE

実行禁止ファイルから 完全な保護

ユーザーガイド



**FARONICS™**  
Intelligent Solutions for ABSOLUTE Control

[www.faronics.com](http://www.faronics.com)



最新更新日：2023年1月

1999 – 2023 Faronics Corporation. All rights reserved. Faronics、Deep Freeze、Deep Freeze Cloud、Faronics Deploy、Faronics Core Console、Faronics Anti-Executable、Faronics Anti-Virus、Faronics Device Filter、Faronics Data Igloo、Faronics Power Save、Faronics Insight、Faronics System Profiler、WINSelect は Faronics Corporation の商標および / または登録商標です。その他すべての会社名および製品名はそれぞれの所有者の商標です。



# 目次

重要な情報.....	6
Faronicsについて.....	6
製品マニュアル.....	6
テクニカルサポート.....	7
お問い合わせ.....	7
用語の定義.....	8
<b>はじめに.....</b>	<b>11</b>
Anti-Executable 概要.....	12
Anti-Executableについて.....	12
Anti-Executableのエディションについて.....	12
Faronics Core Consoleについて.....	12
システム要件.....	13
コンソール要件.....	13
ワークステーションの要件.....	13
Anti-Executable のライセンス.....	14
<b>Anti-Executableのインストール.....</b>	<b>15</b>
インストール概要.....	16
Anti-Executable Loadin のインストール.....	17
ワークステーション上での Anti-Executable の手動インストール.....	20
Faronics Core Console を使用した、ワークステーション上での Anti-Executable のインストールまたはアップグレード.....	23
<b>Anti-Executableへのアクセス.....</b>	<b>25</b>
概要.....	26
Faronics Core Console から Anti-Executable へのアクセス.....	27
Faronics Core ConsoleのAnti-Executableの列.....	27
Faronics Core ConsoleからAnti-Executableコマンドの実行 (Loadinメニュー).....	27
Faronics Core ConsoleからAnti-Executableコマンドの実行(コンテキストメニュー).....	29
アクションのスケジュール設定.....	30
ワークステーション上での Anti-Executable Enterprise へのアクセス.....	31
<b>Anti-Executableの使用.....</b>	<b>33</b>
概要.....	34
一括管理リストの作成.....	35
Anti-Executable ポリシー.....	38
Anti-Executable の設定.....	46
ステータスタブ.....	47
製品情報の確認.....	47
Anti-Executable保護の有効化.....	48
Anti-ExecutableのMaintenance Mode.....	48
Faronics Core Consoleから設定の取得.....	49
実行管理リストタブ.....	50
ユーザータブ.....	51
Anti-Executable管理者または信頼ユーザーの追加.....	51



Anti-Executable管理者または信頼ユーザーの削除.....	52
Anti-Executableパスワードの有効化.....	52
[一時実行モード] タブ.....	53
一時実行モードの有効化または無効化.....	54
セットアップタブ.....	55
Anti-Executableでのイベントログの設定.....	55
DLL実行のモニタ.....	55
JAR実行のモニタ.....	55
VBScript実行のモニタ.....	56
PowerShellスクリプト実行のモニタ.....	56
Anti-Executableのステルス機能.....	56
互換性オプション.....	56
アラートのカスタマイズ.....	57
Faronics Core Console を使用した Anti-Executable レポートの作成.....	58
<b>コマンドライン コントロール.....</b>	<b>59</b>
コマンドラインコントロール.....	60
<b>Anti-Executableのアンインストール.....</b>	<b>63</b>
Faronics Core Console を使用した、ワークステーション上での Anti-Executable のアンインストール.....	64
インストーラを使った Anti-Executable Loadin のアンインストール.....	65
Anti-Executable Loadin のアンインストール (プログラムの追加と削除).....	67



# 序文

Faronics Anti-Executable は、許可された実行可能ファイルのみをワークステーションやサーバーで実行できるようにすることにより、エンドポイントでのセキュリティを確実にするソリューションです。

## トピック

---

[重要な情報](#)

[テクニカルサポート](#)

[用語の定義](#)



## 重要な情報

---

このセクションには Anti-Executable についての重要な情報を記載しています。

### Faronics について

Faronics は、マルチユーザーコンピューティング環境の管理、簡素化、安全保護を支援するソフトウェアを提供します。当社の製品は、ワークステーションの 100% の可用性を保証し、IT 担当者を面倒な技術サポートやソフトウェアの問題から解放してきました。学校施設をはじめ、医療機関、図書館、政府組織、または法人企業で Faronics の顧客中心の取り組みによるパワフルなテクノロジー改革を有効にご使用いただいています。

### 製品マニュアル

Faronics Anti-Executable のテクニカルガイドは、以下のマニュアルで構成されています：

- Faronics Anti-Executable ユーザーガイド：このマニュアルでは製品の使用方法を説明します。
- Faronics Anti-Executable リリースノート：このドキュメントには新しい機能、既知の問題、解決された問題が記載されています。
- Faronics Anti-Executable の機能説明書：この説明書には最新の機能が記載されています。
- Faronics Anti-Executable readme.txt: このドキュメントではインストールプロセスを説明します。



## テクニカルサポート

---

当社では、使いやすく、問題のないソフトウェアを設計するためにあらゆる努力を重ねています。万が一、問題が発生した場合は、テクニカルサポートまでご連絡ください。

Web:[support.faronics.com](http://support.faronics.com)

電子メール :[support@faronics.com](mailto:support@faronics.com)

フリーダイヤル (北米): 1-800-943-6422

電話番号 : 1-604-637-3333

営業時間 : 月曜日～金曜日 午前 7 時から午後 5 時 (太平洋標準時刻)

## お問い合わせ

### 本社

Faronics Corporation

609 Granville St., Suite 1400

Vancouver, BC V7Y 1G5, Canada

Web:[www.faronics.com](http://www.faronics.com)

電子メール :[sales@faronics.com](mailto:sales@faronics.com)

電話番号 : 800-943-6422 または 604-637-3333

ファックス : 800-943-6488 または 604-637-8188

営業時間 : 月曜日～金曜日 午前 7 時から午後 5 時 (太平洋標準時刻)

Faronics Technologies USA Inc.

5506 Sunol Blvd, Suite 202

Pleasanton, CA, 94566, USA

Faronics EMEA

8, The Courtyard, Eastern Road

Bracknell, Berkshire

RG12 2XB, United Kingdom

Faronics Pte Ltd

160 Robinson Road

#05-05 SBF Center

Singapore 068914



## 用語の定義

用語	定義
アラート	実行禁止ファイルを起動しようとする時、表示される通知ダイアログです。Anti-Executable の管理者は、アラートのメッセージと画像を指定できます。
Anti-Executable 管理者	Anti-Executable 管理者は、すべての Anti-Executable 設定オプションにアクセスできます。Anti-Executable ユーザーの管理、Anti-Executable 保護の有効化または無効化の設定、Anti-Executable のアンインストールやアップグレードを行うことができます。
Anti-Executable Loadin	Faronics Core Console の機能を拡張するソフトウェアライブラリで、リモートワークステーションにインストールされた Anti-Executable の構成と操作に対し完全なコントロールを可能にします。
Anti-Executable 信頼ユーザー	Anti-Executable の保護を「有効」または「無効」に設定できません。Anti-Executable をアンインストールしたりアップグレードすることはできません。
一括管理リスト	Anti-Executable のインストール後に Faronics Core を初めて起動すると、設定を促すメッセージを受け取ります。コンソールコンピュータのファイルと発行者を追加することで、一括管理リストを設定できます。その後、ポリシーを通じてこの一括管理リストをワークステーションに適用できます。一括管理リストは 1 回作成するだけですが、ポリシーを通じて 1 台以上のワークステーションに複数回適用することができます。
実行可能ファイル	オペレーティングシステムによって実行できるすべてのファイル。Anti-Executable によって管理される実行可能ファイルで、.scr、.jar、.bat、.com、または .exe という拡張子が付いているもの。.dll という拡張子が付いたダイナミックリンクライブラリは、[設定] タブで設定されていれば管理されます。
実行管理リスト	実行管理リストは、Anti-Executable がファイルまたは発行者を管理する方法を定義します。この実行管理リストは、ファイルを「許可」または「ブロック」するかどうかを定義します。
外部ユーザー	Anti-Executable 管理者ユーザーまたは Anti-Executable 信頼ユーザーのいずれでもないその他すべてのユーザー。 外部ユーザーは、実行許可ファイルのみを実行でき、Anti-Executable の構成を操作することはできません。オペレーティングシステムによって指定されたユーザー権限に関係なく、この制限は適用されます。



用語	定義
Faronics Core Agent	Faronics Core Console との通信を可能にするために、ワークステーション上にインストールされるソフトウェア。
JAR	JAR (Java Archive) は、多数の Java クラスファイル、関連するメタデータとリソース (テキスト、画像など) を 1 つのファイルにまとめたアーカイブファイル形式の 1 つで、Java プラットフォームでのアプリケーションソフトウェアまたはライブラリの配布に使用されます。
Maintenance Mode	Maintenance Mode になっているときに、追加または修正された新しい実行可能ファイルは、自動的にローカル管理リストに追加されます。
ポリシー	ポリシーは Anti-Executable 設定の集まりです。複数のポリシーを作成して、Faronics Core からワークステーションに適用できます。新しいポリシーを作成したり、既存のポリシーを編集したり、ポリシーを削除することができます。
保護	[有効化] に設定すると、一括管理リストとローカル管理リストに基づいて、Anti-Executable によりワークステーションが保護されていることをこの設定が示します。[無効化] に設定すると、あらゆる実行可能ファイルをワークステーション上で実行することができます。
発行者	発行者とはファイルの作成者を指します。発行者はデジタル署名でファイルを認証します。Anti-Executable では、発行者の名前、製品のファイル名、バージョンの詳細を使って、発行者が作成したファイルを識別します。
ステルスモード	ステルスモードは、システム上の Anti-Executable の存在を視覚的に示すアイコンなどを管理する複数のオプションです。ステルスモードでは、管理者は、Windows のシステムトレイで Anti-Executable のアイコンを非表示にしたり、アラートが表示されないようにするオプションを利用できます。
一時実行モード	一時実行モードにより、指定期間中、Anti-Executable からの操作なしで、ユーザーは実行可能ファイルを実行できます。この期間中は、制限を受けずに、実行可能ファイルを実行することができます。ブロックされた実行可能ファイルは、実行が許可されません。
信頼実行可能ファイル	信頼実行可能ファイルでは、実行禁止になっているその他の実行可能ファイルを実行することができます。
実行禁止ファイル	実行禁止ファイルは、実行が許可されていないファイルです。
ワークステーション	システム要件で指定されたオペレーティングシステムを使用するクライアントまたはリモートコンピュータ。





# はじめに

Anti-Executable は、許可されたアプリケーションのみをコンピュータまたはサーバー上で実行できるようにすることによって、エンドポイントの完全な生産性を保証します。プログラムが有害であるか、無許可であるか、または不必要であるかに関わらず、無許可プログラムの実行は常にブロックされます。

## トピック

---

[Anti-Executable 概要](#)

[システム要件](#)

[Anti-Executable のライセンス](#)



## Anti-Executable 概要

### Anti-Executable について

Faronics は、マルチユーザーコンピューティング環境の管理、簡素化、安全保護を支援するソフトウェアを提供します。当社の製品は、ワークステーションの 100% の可用性を保証し、IT 担当者を面倒な技術サポートやソフトウェアの問題から解放してきました。学校施設をはじめ、医療機関、図書館、政府組織、または法人企業で Faronics の顧客中心の取り組みによるパワフルなテクノロジー改革を有効にご使用いただいています。

### Anti-Executable のエディションについて

Faronics Anti-Executable には 4 つの異なるエディションがあります。サーバーまたはワークステーションであろうと、スタンドアロンまたはネットワークの一部であろうと、Anti-Executable は必要とされる保護を提供します。ニーズに最も適した Anti-Executable のエディションを選択してください。

エディション	保護のために使用する Anti-Executable
Standard	非サーバーオペレーティングシステムが稼働している 1 台のスタンドアロンコンピュータ
Server Standard	サーバーオペレーティングシステムが稼働している 1 台のスタンドアロンコンピュータ
Enterprise	非サーバーオペレーティングシステムが稼働している複数のコンピュータ
Server Enterprise	サーバーオペレーティングシステムが稼働している複数のコンピュータ

### Faronics Core Console について

Faronics Core Console は、複数の Faronics 製品を管理するための統合されたフレームワークです。これは、表示、管理、インストール、更新、ワークステーションとサーバーの保護を 1 つのコンソールから行う、信頼性が高く一貫性のある方法を提供しています。Faronics 製品の完全な管理ソリューションによって、組織の効率性を高めることができます。

Faronics Core Console は、Anti-Executable および Anti-Executable Server のエンタープライズエディションを管理します。



## システム要件

---

### コンソール要件

Faronics Core Console システム要件の情報は、[www.faronics.com/library](http://www.faronics.com/library) からダウンロードできる Faronics Core Console のユーザーズガイドに記載されています。

### ワークステーションの要件

Anti-Executable は、以下のオペレーティングシステムにインストールできます。

- Windows 7、Windows 8.1、Windows 10、Windows 11 バージョン 22H2 までの 32 ビット版および 64 ビット版
- Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022



## Anti-Executable のライセンス

Anti-Executable には完全版と評価版があります。評価版は無料で Faronics のウェブサイト ([www.faronics.com](http://www.faronics.com)) からダウンロードできます。評価版をインストールすると 30 日間使用できます。評価版の有効期限が切れると、コンピュータは保護されません。アンインストールするか、完全版にアップグレードする必要があります。完全版でコンピュータを保護するには、有効なライセンスキーが必要です。

Anti-Executable のライセンスは以下のように機能します。

Core Server (Faronics Core のコンポーネント) はライセンスキーを自動的に Anti-Executable クライアントがインストールされたワークステーションに適用します (コンピュータがオフラインの場合、ライセンスキーはコンピュータがオンラインに戻ったときに一度適用されます)。



Faronics Anti-Executable ライセンスキーを Loadin のインストール中に入力した場合、[プロパティ] タブでもう一度入力する必要はありません。



Anti-Executable サーバー版は、非サーバーオペレーティングシステムにインストールすることはできません。Anti-Executable サーバー版のライセンスキーは、非サーバー版で使用することはできません。

Anti-Executable 非サーバー版は、サーバーオペレーティングシステムにインストールすることはできません。Anti-Executable 非サーバー版のライセンスキーは、サーバー版で使用することはできません。



# Anti-Executable のインストール

この章では Anti-Executable のインストールプロセスについて説明します。

## トピック

---

[インストール概要](#)

[Anti-Executable Loadin のインストール](#)



## インストール概要

---

Faronics Core Console から Anti-Executable 専用のタスクを容易に実行できるようにするために、Anti-Executable Loadin をインストールする必要があります。Loadin がインストールされると、Faronics Core Console を使って、リモートコンピュータ上で Anti-Executable をインストール、アップグレード、アンインストールすることができます。

Anti-Executable が配備できたら、Faronics Core Console を使って、Anti-Executable のすべてのタスクとコマンドを管理できます。

Faronics Core Console を使って、リモートコンピュータにインストールする場合、適切なインストーラが自動的に選択されます。ただし、手動でインストールする前に、オペレーティングシステムのバージョンを確認し、以下のリストからインストーラを選択してください。

システム	インストールファイル
Windows (32 ビット)	AEEnt_32-bit.msi
Windows (64 ビット)	AEEnt_64-bit.msi
Windows Server (32 ビット)	AESrvEnt_32-bit.msi
Windows Server (64 ビット)	AESrvEnt_64-bit.msi



# Anti-Executable Loadin のインストール



Anti-Executable Loadin は、Faronics Core Console がインストールされていないコンピュータにインストールすることはできません。

Anti-Executable は、セットアップウィザードを使用してインストールすることができます。Anti-Executable をインストールするには、以下の手順を実行します。

1. Anti-Executable をインターネット経由でダウンロードした場合は、Anti-Executable\_Console\_Loadin\_Installer.exe ファイルをダブルクリックして、インストールプロセスを開始します。[次へ] をクリックして、続行します。



2. 使用許諾契約書を読み、同意します。[次へ] をクリックして、続行します。





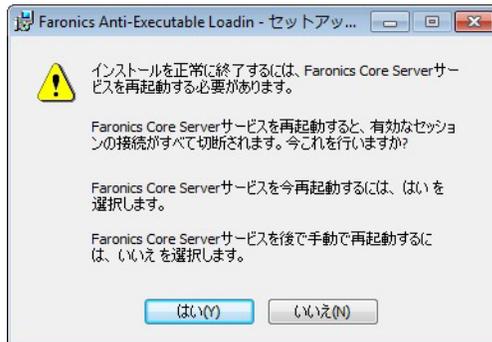
3. ユーザー名と組織を入力します。Anti-Executable Enterprise または Anti-Executable Server Enterprise のライセンスキーを入力します。評価版をインストールするには、[ 評価版を使用 ] を選択します。



4. デフォルトは、C:\Program Files\Faronics\Faronics Core 3\Loadins\Anti-Executable です。[ インストール ] をクリックして、続行します。



5. インストールを正常に完了するには、Faronics Core Server Service を再起動する必要があります。Faronics Core Server Service を再起動するには、[ はい ] をクリックします。後でサービスを手動で再起動するには、[ いいえ ] をクリックします。





6. [完了] をクリックして、インストールを終了します。



Loadin のインストールが正常に行われた後に、ワークステーションを 1 台以上選択すると、Faronics Core Console により [アクション] ペインに Anti-Executable 専用の機能リストが表示されます。また、以下に示されるように、ワークステーションリストに特定の列が表示されます。Anti-Executable の機能は、1 台以上のワークステーションを選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示し、その中から使用することもできます。

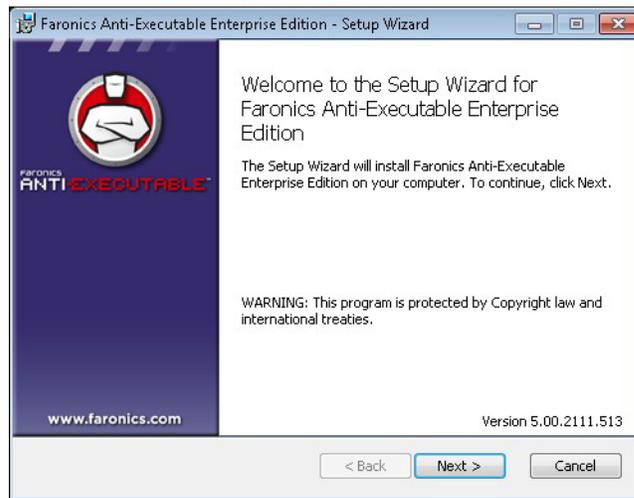


## ワークステーション上での Anti-Executable の手動インストール

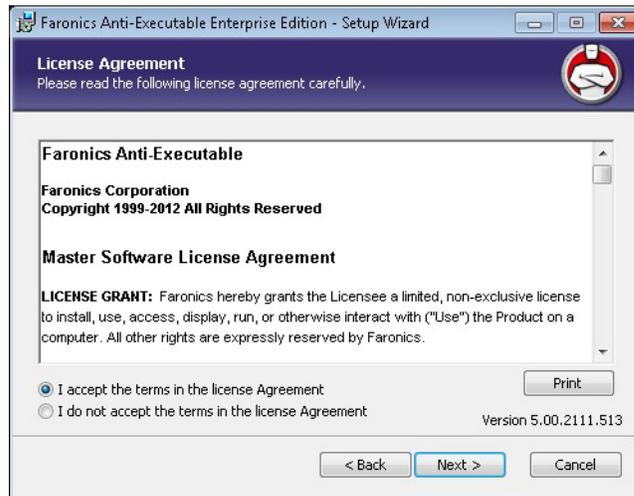
ワークステーションに Anti-Executable をインストールする前に、Anti-Executable Loadin がインストールされたコンピュータの C:\Program Files\Faronics\Faronics Core 3\Loadins\Anti-Executable\Workstation Installers というパスにある適切な .msi ファイルを 1 台以上のワークステーションにコピーします。

ファイルをコピーした後に、ワークステーションに Anti-Executable を手動でインストールするには、以下の手順を実行します。

1. .msi ファイルをダブルクリックして、インストールプロセスを開始します。[次へ] をクリックして、続行します。



2. 使用許諾契約書に同意します。[次へ] をクリックして、続行します。





3. ユーザー名と組織を入力します。[次へ]をクリックして、続行します。

Faronics Anti-Executable Enterprise Edition Setup

**Customer Information**  
Please enter your information.

User Name:  
Core

Organization:

Use Evaluation (30 days)

Version 5.00.2111.513

< Back   Next >   Cancel

4. [インストール先フォルダ]を指定します。デフォルトの場所は、C:\Program Files\Faronics\AEです。[次へ]をクリックして、続行します。

Faronics Anti-Executable Enterprise Edition - Setup Wizard

**Destination Folder**  
Select a folder where the application will be installed.

Install Faronics Anti-Executable Enterprise Edition to:

C:\Program Files\Faronics\AE\

Browse...

Version 5.00.2111.513

< Back   Next >   Cancel

5. AE Administrator のユーザーパスワードと AE 信頼ユーザーのパスワードを指定します。[次へ]をクリックして、続行します。

Faronics Anti-Executable Enterprise Edition - Setup Wizard

**Installation Configuration**  
Enter the following information to personalize your installation.

AE Administrator User Password (Optional)

Enter Password:

Re-Enter Password:

AE Trusted User Password (Optional)

Enter Password:

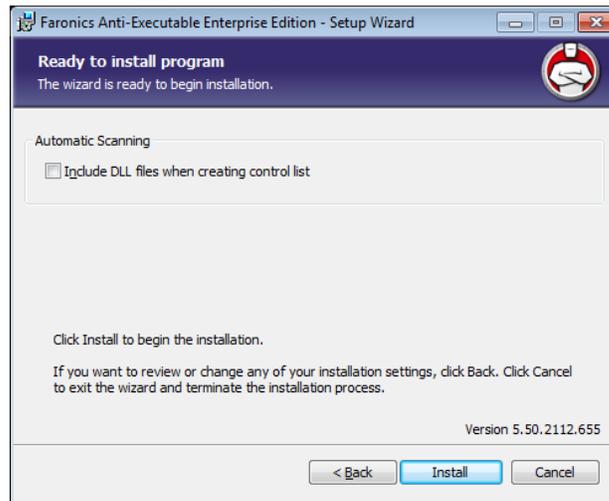
Re-Enter Password:

Version 5.00.2111.513

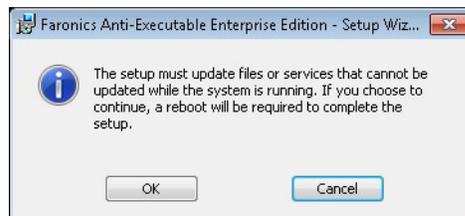
< Back   Next >   Cancel



6. 以下のオプションを選択して、[インストール] をクリックします。
  - > 管理リストの作成時に DLL ファイルを含める :DLL を含める場合は、このオプションを選択します。



7. [OK] をクリックして、コンピュータを再起動します。後でコンピュータを再起動するには、[キャンセル] をクリックします。



8. [完了] をクリックして、インストールを終了します。



## Faronics Core Console を使用した、ワークステーション上での Anti-Executable のインストールまたはアップグレード

Anti-Executable Loadin をインストールすることによって、リモートコンピュータの保護に必要な Anti-Executable のインストールファイルがアンバンドルされます (アンバンドルされるファイルは、インストールしている Anti-Executable のエディションによって異なります)。



Faronics Core Console を使って Anti-Executable をインストールする前に、Faronics Core Agent が各ワークステーションにインストールされている必要があります。Faronics Core Agent により、Faronics Core Agent がインストールされたワークステーションと Faronics Core Console との通信が可能になります。Faronics Core Agent の配備プロセスの詳細については、[www.faronics.com/library](http://www.faronics.com/library) からダウンロードできる『Faronics Core Console ユーザーガイド』を参照してください。

Anti-Executable ファイルがアンバンドルされるデフォルトの場所は、C:\Program Files\Faronics\Faronics Core\Loadins\Anti-Executable\Workstation Installers です。

1 台以上のワークステーションに Anti-Executable をインストールまたはアップグレードするには、以下の手順を実行します。

1. Faronics Core Console のリストで 1 台以上のワークステーションを選択し、[アクション] ペイン > [Anti-Executable] > [Anti-Executable のインストール / アップグレード] を選択するか、Faronics Core Console のリストでワークステーションを右クリックし、[Anti-Executable] > [Anti-Executable のインストール / アップグレード] を選択します。
2. ワークステーション証明書を指定します。これには 2 つのオプションがあります。
3. Anti-Executable の最初のユーザーとして、ローカルワークステーションのアカウントを使用するには、[ローカルワークステーションアカウント] を選択してします。ユーザー名を指定します。[OK] をクリックします。
4. Anti-Executable の最初のユーザーとして、ドメインのアカウントを使用するには、[ドメインアカウント] を選択してします。ドメインとユーザー名を指定します。[OK] をクリックします。
5. [インストールのカスタマイズ] ダイアログが表示されます。AE 管理者のパスワード、AE 信頼ユーザーのパスワード、およびライセンスキーを指定します。以下のオプションから 1 つ選択します。
  - > ローカル管理リストの作成時に DLL ファイルを含める: スキャン時に、DLL (ダイナミックリンクライブラリ) を含めます。
  - > インストール後のワークステーションの再起動を後で行う: インストール後の再起動を後で行います。Anti-Executable が正常に機能するには、再起動が必要です。
6. [OK] をクリックして、Anti-Executable をインストールします。Anti-Executable がインストールされ、管理リストが有効となります。



Anti-Executable

インストールのカスタマイズ:

AE管理者ユーザパスワード(オプション)

パスワードの入力(P):

パスワードの再入力(R):

AE信頼ユーザパスワード(オプション)

パスワードの入力(B):

パスワードの再入力(A):

インストールオプション

ローカル管理リストの作成時にDLLを含める(D)

ワークステーションの再起動をインストール後に行う(W)

OK キャンセル



# Anti-Executable へのアクセス

## トピック

---

### 概要

[Faronics Core Console から Anti-Executable へのアクセス](#)

[ワークステーション上での Anti-Executable Enterprise へのアクセス](#)



## 概要

---

許可されたユーザーがログインしている場合、そのユーザーが Faronics Core Console を使用して、または配備されたワークステーションから直接 Anti-Executable Enterprise にアクセスできます。



## Faronics Core Console から Anti-Executable へのアクセス

Faronics Core Console のワークステーションリストから 1 台のワークステーションを選択し、[アクション] ペインから [Anti-Executable の構成] を開くか、リストでワークステーションを右クリックし、[Anti-Executable の構成] を選択することで、Faronics Core Console から Anti-Executable にアクセスできます。

### Faronics Core Console の Anti-Executable の列

Anti-Executable に関する以下の列が [結果] ペインに表示されます。

- ステルス: この列には Anti-Executable がステルスモードで実行されているかどうかを示されます。
- 保護: この列では以下のいずれかが示されます。
  - > 有効化: [有効化] に設定していると、Anti-Executable でローカル実行リストを使って、ワークステーションが保護されていることが示されます。
  - > 無効化: [無効化] に設定していると、すべての実行可能ファイルをワークステーション上で実行することができます。
  - > Maintenance Mode: Maintenance Mode になっているときに、[有効化] が選択されていると、新しく追加された実行可能ファイルや変更された実行可能ファイルが自動的にローカル実行リストに追加されます。[無効化] を選択すると、Anti-Executable で変更は記録されません。
  - > 一時実行モード: [一時実行モード] に設定すると、実行可能ファイルをワークステーションで実行できます。
- ポリシー名: ワークステーションに適用されるポリシーの名前。
- バージョン: この列には Anti-Executable のバージョンが示されます。
- ロギング: この列ではロギングオプションが有効になっているか、無効になっているかが示されます。
- ライセンスの種類: この列ではライセンスが評価版であるか、完全版であるかが示されます。
- マウス / キーボード: この列では、選択されたワークステーションのマウスとキーボードが有効になっているか、無効になっているかが示されます。

ワークステーションリストの他の列の詳細については、[www.faronics.com/library](http://www.faronics.com/library) からダウンロードできる『Faronics Core Console ユーザーガイド』を参照してください。

### Faronics Core Console から Anti-Executable コマンドの実行 (Loadin メニュー)

Anti-Executable のコマンドは、Anti-Executable Loadin のコンテキストメニューを右クリックしてアクセスできます。

Loadin メニューでは以下のコマンドが使用できます。



## 一括管理リストの管理

このコマンドは一括管理リストを管理するために使用します。一括管理リストは、ファイルと発行者が保存される場所です。一括管理リストは、ポリシーを通じて1台以上のワークステーションに適用できます。

## 新規ポリシー

ポリシーとは設定の集まりを指します。このコマンドは新しいポリシーを作成するときに使用します。ポリシーは1台以上のワークステーションに適用できます。ポリシーでは、一括管理リストの項目を「許可」または「ブロック」に定義できます。

## 保護

Anti-Executable 保護を素早く有効化または無効化するには、1台以上のワークステーションを選択して、[アクション] ペインで [保護] > [有効化] または > [無効化] をクリックします。

## Maintenance Mode

Anti-Executable が Maintenance Mode で実行されるように設定できます。Maintenance Mode の間はどの実行可能ファイルも実行が許可されます。Maintenance Mode は新しいアプリケーションやアプリケーションのアップグレードのインストールに使用します。

## キーボードとマウス

[キーボード/マウス] をクリックし、[有効化] または [無効化] を選択すると、1台または複数のワークステーション上のキーボードとマウスを無効または有効にできます。

## AE ユーザーの管理

このオプションを選択すると、Anti-Executable ユーザーを管理できます。

## 一時実行モード

一時実行モードにより、指定期間中、Anti-Executable からの操作なしで、ユーザーが実行可能ファイルを実行できます。ワークステーションを選択して、[一時実行モード] を選択し、[5]、[15]、[30]、[45]、[60]、または [カスタム] を選択します。[一時実行モード] を無効にするには、ワークステーションを選択し、[一時実行モード] > [無効化] を選択します。

## ローカル管理リストのスキヤンの開始

ワークステーション上のファイルをスキヤンして管理リストのスキヤンを開始します。これによりファイルと発行者のローカルリストが作成されます。管理リストに追加されたすべてのファイルと発行者は、デフォルトで「許可」に設定されています。

## ポリシーを再びアサイン

ワークステーションに現在適用されているポリシーを再度アサインします。



## Anti-Executable クライアントの設定

このオプションを選択すると、ワークステーションで Anti-Executable クライアントを設定できます。

## Anti-Executable クライアントのインストール / アップグレード

このオプションを選択すると、Anti-Executable クライアントをインストールまたはアップグレードできます。

## Anti-Executable クライアントのアンインストール

このオプションを選択すると、Anti-Executable をアンインストールできます。

## Faronics Core Console から Anti-Executable コマンドの実行 (コンテキストメニュー)

Anti-Executable のコマンドは、コンテキストメニューを右クリックしてアクセスできます。

Faronics Core Console ウィンドウの右側にある Faronics Core Console の [アクション] ペインからも Anti-Executable のコマンドにアクセスすることができます。リストからワークステーションを選択すると、[アクション] ペインにこれらのタスクがリストされます。

## 保護

Anti-Executable 保護を素早く有効化または無効化するには、1 台以上のワークステーションを選択して、[アクション] ペインで [保護] > [有効化] または > [無効化] をクリックします。

## Maintenance Mode

Anti-Executable が Maintenance Mode で実行されるように設定できます。

## キーボードとマウス

[キーボード/マウス] をクリックし、[有効化] または [無効化] を選択すると、1 台または複数のワークステーション上のキーボードとマウスを無効または有効にできます。

## AE ユーザーの管理

このオプションを選択すると、Anti-Executable ユーザーを管理できます。

## 一時実行モード

一時実行モードにより、指定期間中、Anti-Executable からの操作なしで、ユーザーが実行可能ファイルを実行できます。ワークステーションを選択して、[一時実行モード] を選択し、[5]、[15]、[30]、[45]、[60]、または [カスタム] を選択します。[一時実行モード] を無効にするには、ワークステーションを選択し、[一時実行モード] > [無効化] を選択します。

## ローカル管理リストのスキャンの開始

ワークステーション上のファイルのスキャンして管理リストのスキャンを開始します。ポリシーにファイルまたは発行者を追加することもできます。



## ポリシーを再びアサイン

ワークステーションに現在適用されているポリシーを再度アサインします。

## Anti-Executable クライアントの設定

このオプションを選択すると、ワークステーションで Anti-Executable クライアントを設定できます。

## Anti-Executable クライアントのインストール / アップグレード

このオプションを選択すると、Anti-Executable クライアントをインストールまたはアップグレードできます。

## Anti-Executable クライアントのアンインストール

このオプションを選択すると、Anti-Executable をアンインストールできます。

## アクションのスケジュール設定

Anti-Executable および Faronics Core Console は、管理者の都合が良い日と時間に、1 台以上のワークステーション上でイベントが実行されるようにスケジュールできます。1 台以上のワークステーションをクリックし、[アクションのスケジュール設定] を選択します。表示されるサブメニューには、以下のような利用可能なアクションリストが含まれます。

### Faronics Core Console で管理できるアクション

- シャットダウン
- 再起動
- ウェイクアップ

### Faronics Anti-Executable で管理できるアクション

- 保護 (有効化または無効化)
- Maintenance Mode
- アラート (有効化または無効化)
- 一時実行モード
- 管理リストスキャンの開始
- Anti-Executable のインストール / アップグレード
- Anti-Executable のアンインストール

アクションを選択すると、[スケジュール] メニューが表示され、管理者は頻度 (1 回限り、毎週、または毎月) を指定することができます。頻度に基づいて、特定の時間、曜日、日付、月を選択することができます。



## ワークステーション上での Anti-Executable Enterprise へのアクセス

---

Anti-Executable は、ワークステーション上で Shift キーを押したまま、Windows のシステムトレイの Anti-Executable アイコンをダブルクリックして、アクセスできます。また、Ctrl+Alt+Shift+F10 ホットキーを使用することもできます。

管理者は、[ステータス]、[実行管理リスト]、[ユーザー] の各タブにアクセスできます。信頼ユーザーは、[ステータス] タブと [実行管理リスト] タブのみにアクセスできます。

外部ユーザーは Anti-Executable にアクセスできません。パスワードが設定されている場合、Anti-Executable 管理者および信頼ユーザーが Anti-Executable にアクセスするには、適切なパスワードを入力する必要があります。





# Anti-Executable の使用

この章では Anti-Executable の構成と使用手順について説明します。

## トピック

---

[概要](#)

[ステータスタブ](#)

[実行管理リストタブ](#)

[ユーザータブ](#)

[\[一時実行モード\] タブ](#)

[セットアップタブ](#)

[Faronics Core Console を使用した Anti-Executable レポートの作成](#)



## 概要

Anti-Executable は、保護強化のために複数の管理リストを提供します。以下のコンポーネントがあります。

- 一括管理リスト：一括管理リストは、ファイルと発行者が保存される場所です。Anti-Executable のインストール後に Faronics Core を初めて起動すると、一括管理リストの設定を促すメッセージを受け取ります。コンソールコンピュータ、ネットワーク上のリモートコンピュータ、または UNS パスのファイルと発行者を追加することで、一括管理リストを設定できます。

Anti-Executable は、一般的に知られているパブリッシャのリストで事前に作成されています。このリストは必要に応じて更新されます。

- ポリシー：ポリシーは Anti-Executable 設定の集まりです。複数のポリシーを作成して、Faronics Core からワークステーションに適用できます。新しいポリシーを作成したり、既存のポリシーを編集したり、ポリシーを削除することができます。ポリシーでは、一括管理リストの項目を「許可」または「ブロック」に定義できます。
- 実行管理リストは、Anti-Executable がファイルまたは発行者を管理する方法を定義します。この実行管理リストは、ファイルまたは発行者を「許可」または「ブロック」するかどうかを定義します。
- ファイルと発行者のローカルリスト：Anti-Executable をワークステーションに初めてインストールすると、ワークステーションをスキャンし、許可されたすべてのファイルと発行者のリストを作成するオプションがあります。このリストはワークステーションにあるため、Faronics Core では表示または編集はできません。各ワークステーションにはファイルおよび発行者の独自のローカルリストがあります。



一括管理リストを大きくしないようにします。一括管理リストが大きくなりすぎると、その設定が複数のワークステーションに適用されるまでに長い時間がかかる場合があります。

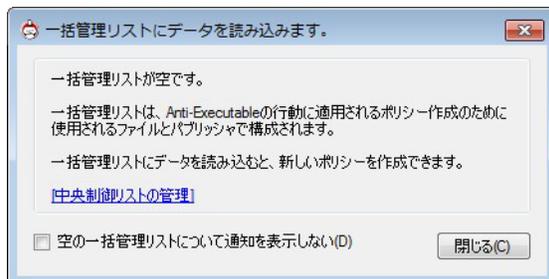


## 一括管理リストの作成

Anti-Executable のインストール後に Faronics Core を初めて起動すると、一括管理リストが空だというメッセージを受け取ります。

一括管理リストにデータを入れるには、以下の手順を実行します。

1. Anti-Executable をインストールした後に、Faronics Core を初めて起動すると、最初にダイアログボックスが表示されます。その中の [一括管理リストの管理] をクリックします。または、Anti-Executable Loadin を右クリックして、[一括管理リストの管理] を選択します。



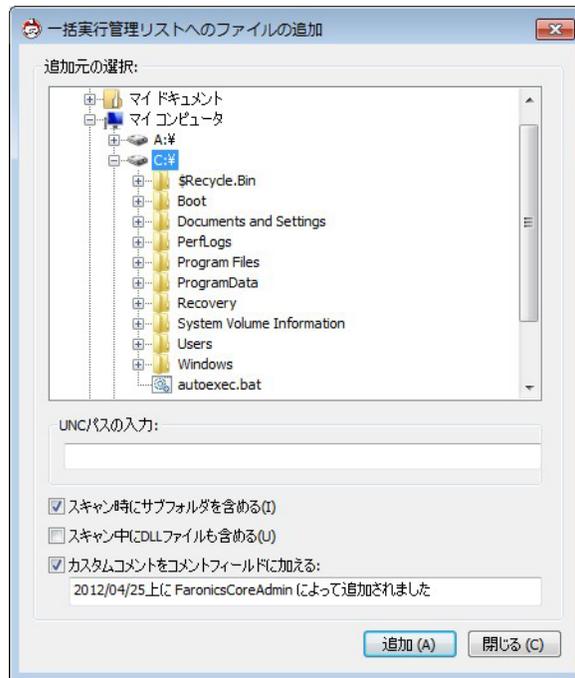
2. [Anti-Executable 一括管理リスト] 画面が表示されます。



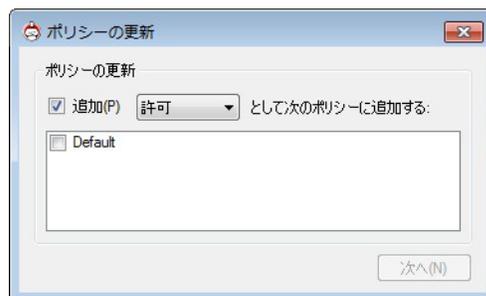
3. [ファイル] ノードで [追加] をクリックします。[一括管理リストへのファイルの追加] ダイアログボックスが表示されます。



4. 参照してコンソールコンピュータのフォルダ / ドライブを選択します。以下のオプションを選択して、[ 追加 ] をクリックします。

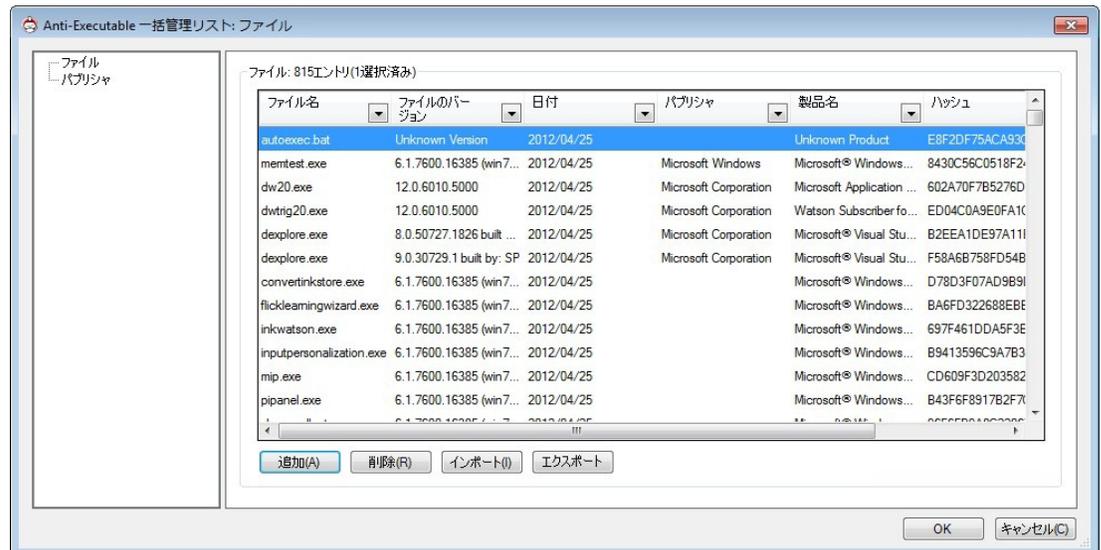


- > スキャン時にサブフォルダを含める：このオプションを選択すると、スキャン時に、選択したドライブ / フォルダ内のすべてのサブフォルダが含まれます。
  - > スキャン中に DLL ファイルも含める：スキャン時に、DLL (ダイナミックリンクライブラリ) が含まれます。
  - > カスタムコメントをコメントフィールドに加える：このオプションを選択して、必要に応じてコメントを編集します。コメントは [ 集中リスト ] に表示されます。
5. [ ポリシーの更新 ] ダイアログでこれらのファイルを 1 つ以上のポリシーに追加します。ドロップダウンリストから [ 許可 ] または [ ブロック ] を選択し、ファイルを追加するポリシーを選択します。

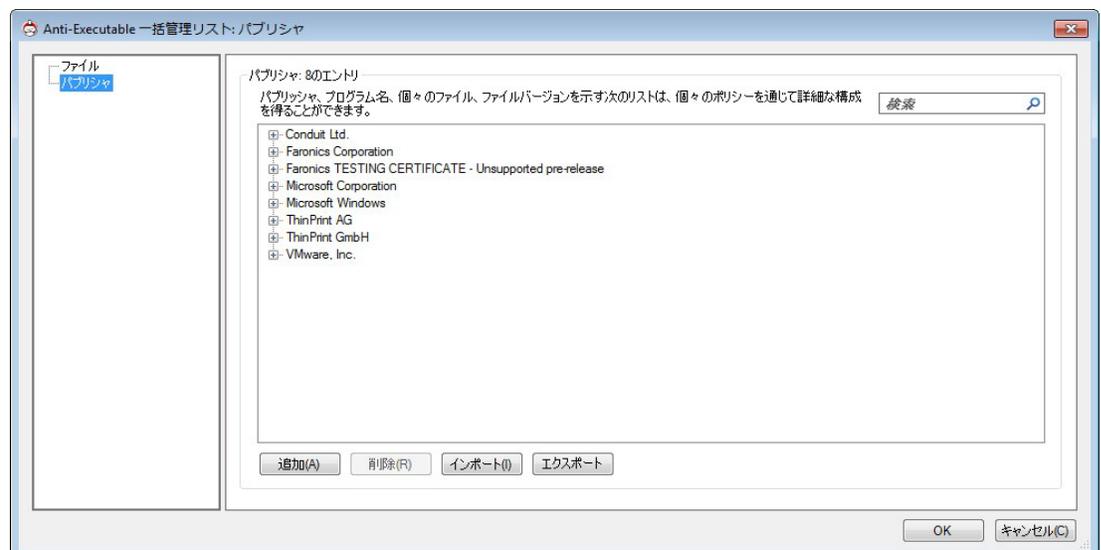




6. 追加されたファイルが表示されます。選択したファイルを削除するには [削除] を選択し、ファイルリストをエクスポートまたはインポートするには [エクスポート] または [インポート] を選択します。列のタイトルに基づいてファイルをソートできます。列ヘッダーで特定の文字列を動的に検索することもできます。



7. [発行者] をクリックします。コンソールコンピュータの発行者のリストが自動的に追加され表示されます。発行者を追加するには、[追加] をクリックします。選択した発行者を削除するには、[削除] をクリックします。発行者リストをインポートするには、[インポート] をクリックします。発行者リストをエクスポートするには、[エクスポート] をクリックします。



8. [OK] をクリックします。[一括管理リスト] が保存され、ポリシーを通じてワークステーションに適用できます。

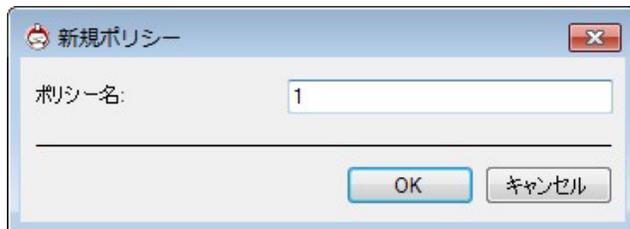


## Anti-Executable ポリシー

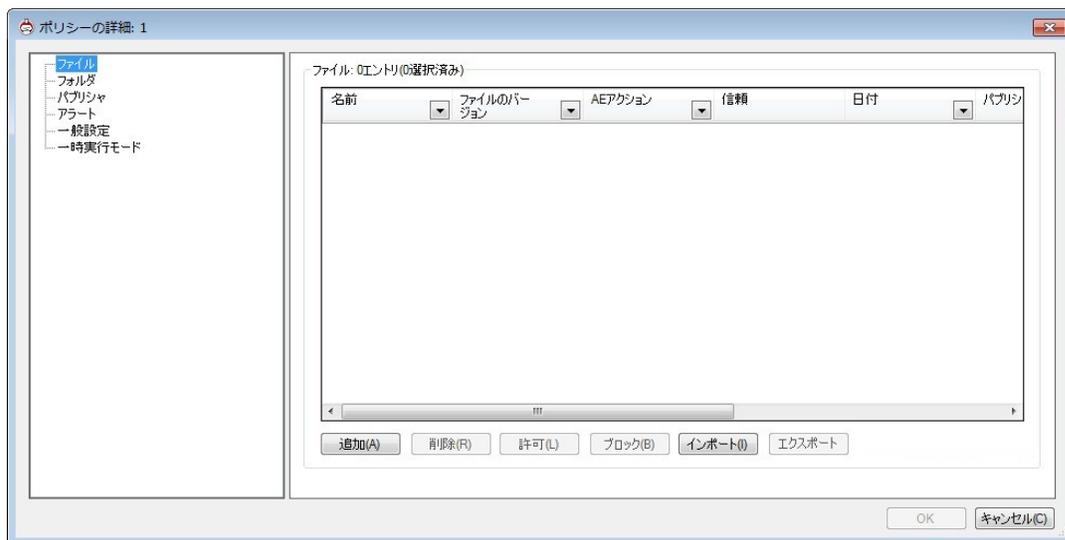
ポリシーとは設定の集まりを指します。Anti-Executable ポリシーを作成して、複数のワークステーションに適用できます。複数のポリシーは要件に応じて作成できます。

Anti-Executable ポリシーを作成するには、以下の手順を実行します。

1. Anti-Executable Loadin を右クリックして、[新規ポリシー] を選択します。
2. [新規ポリシー] ダイアログが表示されます。ポリシー名を指定して、[OK] をクリックします。

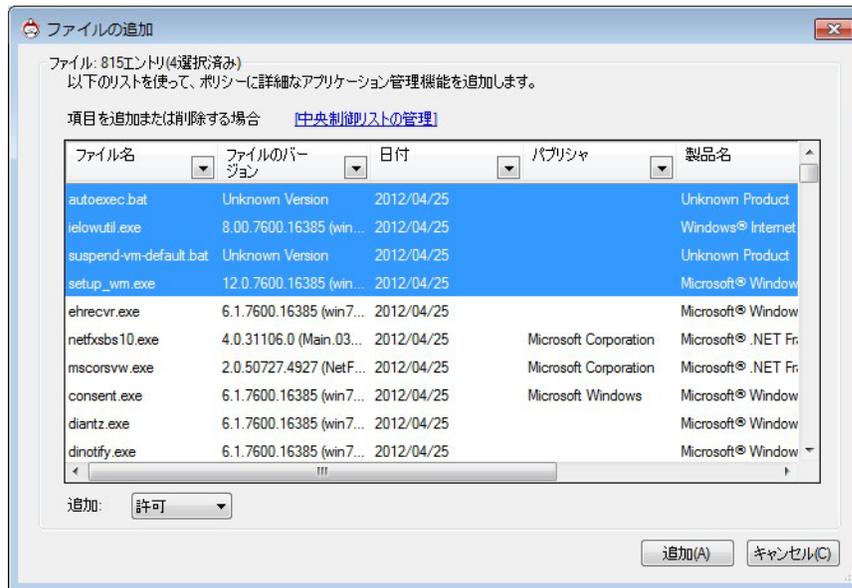


3. [ファイル] ノードと [ポリシー] ダイアログが表示されます。

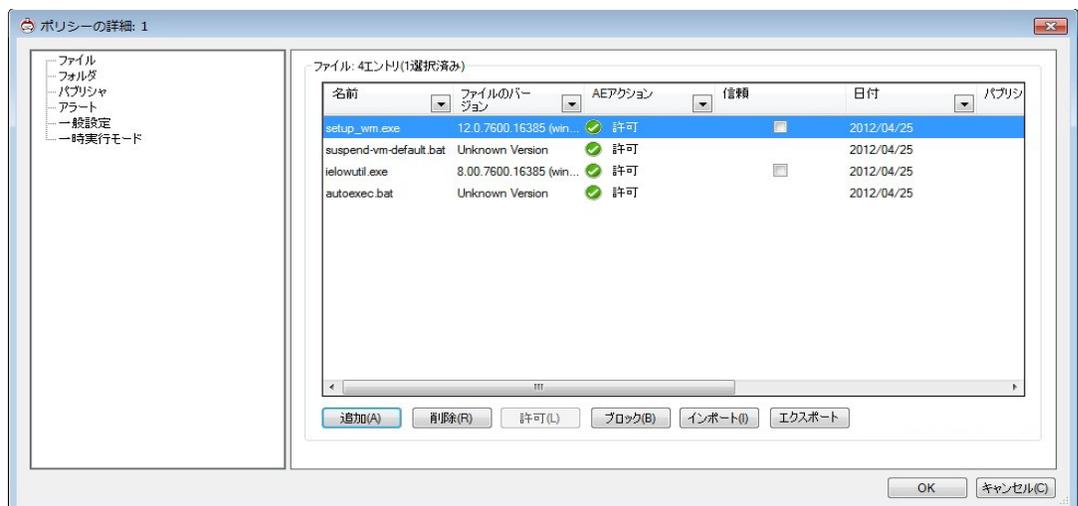




- [ファイル] ノードで [追加] をクリックします。一括管理リストに追加されたファイルが表示されます。ファイルを選択して、[追加] ドロップダウンで [許可] または [ブロック] を選択し、[追加] をクリックします。

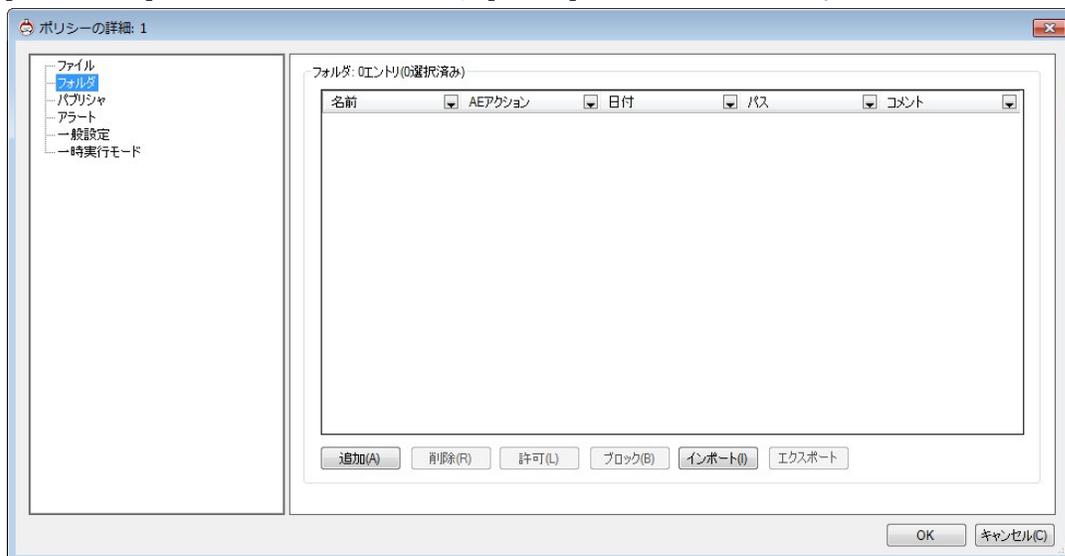


- ファイルがポリシーに追加されます。

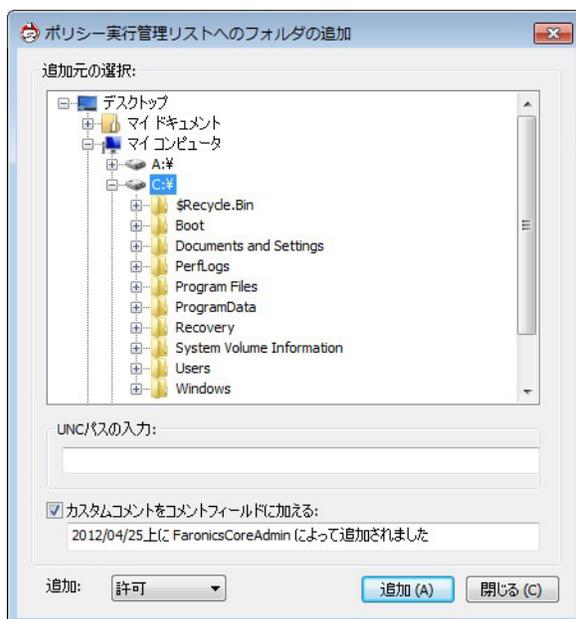




6. [フォルダ] ノードをクリックして、[追加] をクリックします。

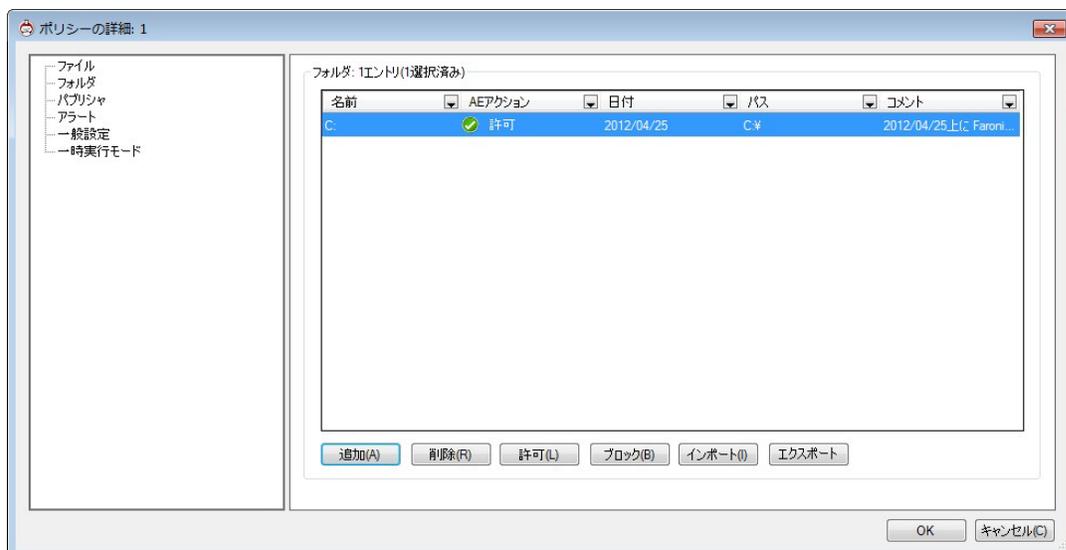


7. 参照して、[ポリシーリストへのフォルダの追加] ダイアログからフォルダを選択します。または、UNC パスを入力できます。[カスタムコメントをコメントフィールドに加える] を選択して、コメントを指定します (オプション)。[追加] をクリックします。

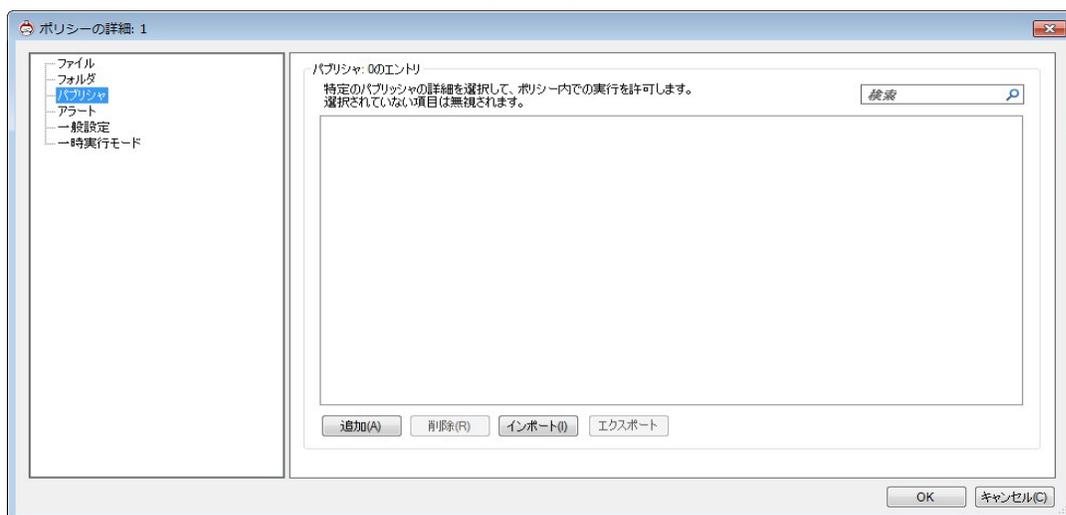




8. フォルダ / ドライブがポリシーに追加されます。

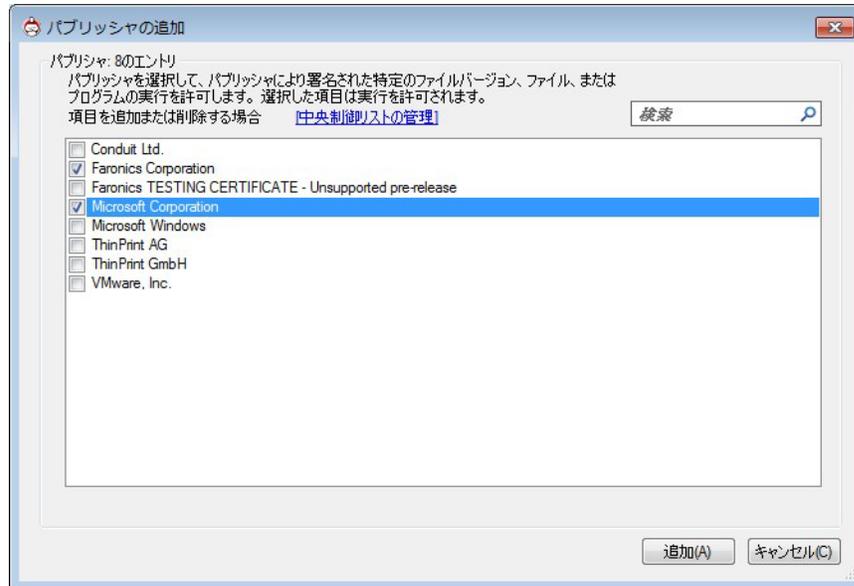


9. [ 発行者 ] ノードをクリックします。[ 追加 ] をクリックします。

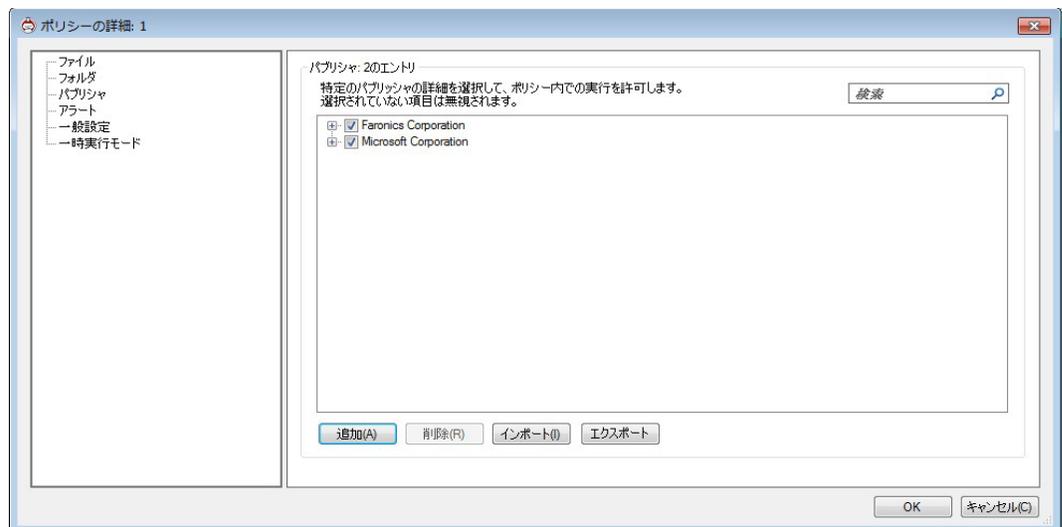




10.一括管理リストに追加された発行者を選択し、[追加]をクリックします。



11.発行者が追加されます。発行者の一番上のノードを選択し、すべてのサブノードを追加するか、またはサブノードを選択します。

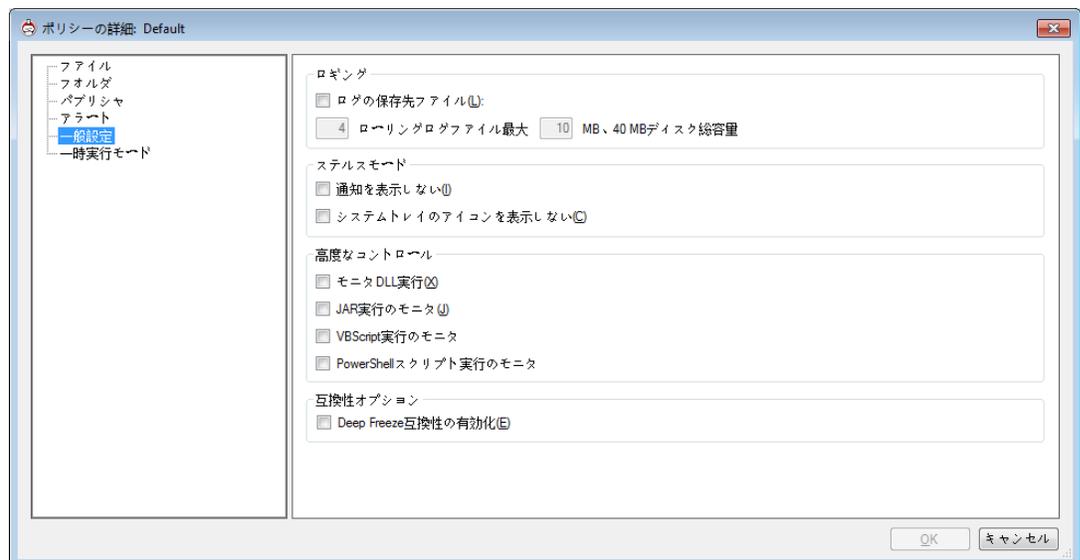




12. [アラート] ノードをクリックします。[変更] をクリックして、ユーザーに対して表示される画像を変更します。実行管理リスト違反のメッセージまたはブロック通知メッセージを編集することもできます。



13. [一般設定] ノードをクリックします。以下の設定を行います。



- ロギング: ログファイルにイベントのログを書き込むには、[ファイルへのログの書き込み] を選択します。Windows 7 のログファイルの場所は、C:\ProgramData\Faronics\Storage Space\AEE です。
- Stealth Mode: ステルスモードは、システム上の Anti-Executable の存在を視覚的に示すアイコンなどを管理する複数のオプションです。ステルスモードでは、管理者は、Windows のシステムトレイで Anti-Executable のアイコンを非表示にできます。Anti-Executable がシステムトレイに表示されていない場合、管理者と信頼ユーザーは、Ctrl+Alt+Shift+F10 ホットキーを使って Anti-Executable を起動できます。ステルス機能には以下のオプションがあります。
  - > 通知を表示しない: アラートが表示されないようにします。
  - > システムトレイのアイコンを表示しない: システムトレイの Anti-Executable アイコンを非表示にします。



- DLL の実行 :DLL をモニタするには、[DLL 実行のモニタ] チェックボックスを選択します。このチェックボックスが選択されていないと、管理リストに DLL が追加されてもモニタされません。
- JAR 実行のモニタ :JAR ファイルをモニタするには、[JAR 実行のモニタ] チェックボックスを選択します。このチェックボックスが選択されていないと、管理リストに JAR ファイルが追加されてもモニタされません。
- VBScript 実行のモニタ :VBScript ファイルをモニタするには、このオプションを選択します。このチェックボックスが選択されていないと、管理リストに VBScript ファイルが追加されてもモニタされません。
- PowerShell スクリプト実行のモニタ :PowerShell スクリプトファイルをモニタするには、このオプションを選択します。このチェックボックスが選択されていないと、管理リストに PowerShell スクリプトファイルが追加されてもモニタされません。
- 互換性オプション :Anti-Executable は Deep Freeze と互換性があります。
  - > Deep Freeze 互換性 : この機能は、コンピュータに Deep Freeze と Anti-Executable がインストールされているときにのみ有効になります。Deep Freeze の互換性機能により、管理者は Deep Freeze と Anti-Executable の Maintenance Mode を同期させることができます。[Deep Freeze 互換性の有効化] チェックボックスを有効にすることで、Deep Freeze が Maintenance Mode になると (Deep Freeze は、Maintenance Mode のときに Thawed で再起動します)、Anti-Executable も自動的に Maintenance Mode になります。Deep-Freeze と Anti-Executable が同時に Maintenance Mode になるように設定することで、コンピュータに追加された実行可能ファイルは、実行管理リストに追加されるだけでなく、Maintenance Mode の終了後にコンピュータが保護されると、Deep Freeze によって保持されます。Anti-Executable では、Deep Freeze の Maintenance Mode が終了する少し前まで Maintenance Mode が続きます。Anti-Executable の Maintenance Mode が終了すると、実行管理リストに新しい実行可能ファイルまたは更新された実行可能ファイルが追加されます。Deep Freeze の Maintenance Mode が終了すると、更新された実行管理リストで Frozen になっているコンピュータが再起動します。



Deep Freeze 互換性が有効になっており、Deep Freeze が Frozen になっている場合、Anti-Executable を Maintenance Mode に設定することはできません。これはコンピュータに加えられた変更が再起動によって失われるためです。

Anti-Executable が無効になっているときに、Deep Freeze が Maintenance Mode になると、Anti-Executable は無効の状態が続きます。

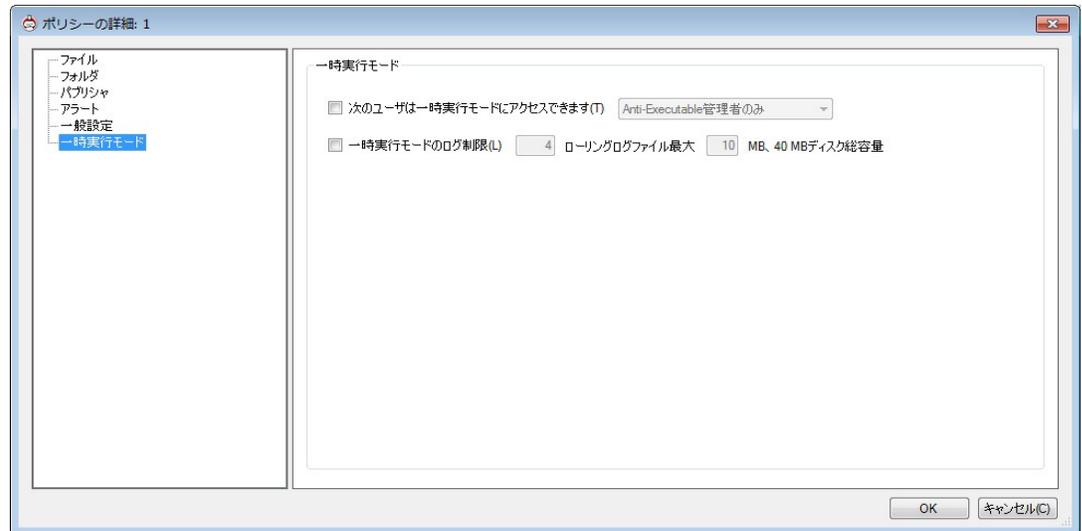
Deep Freeze によって開始する Maintenance 期間は、Anti-Executable で設定されているその他の Maintenance 期間よりも優先します。

Deep Freeze の詳細は、<http://www.faronics.com/deepfreeze> をご覧ください。

14. [一時実行モード] ノードをクリックします。一時実行モードにより、指定期間中、Anti-Executable からの操作なしで、ユーザーは実行可能ファイルを実行できます。



この期間中は、制限を受けずに、実行可能ファイルを実行することができます。一時実行モードの期間が終了すると、Anti-Executable が有効になります。



以下のオプションが一時実行モードで使用できます。

- 次のユーザーは一時実行モードにアクセスできます：このチェックボックスを選択すると、特定のユーザーが各自のシステムで一時実行モードを有効にできます。[すべてのユーザー]、[Anti-Executable ユーザー]、[Anti-Executable 管理者のみ] を選択します。
- 一時実行モードのログ制限：このチェックボックスを選択すると、一時実行モード中にログファイルが作成されます。
  - > ログファイルの数：ログファイルの数を指定します（最大 10 ファイルまで）。ログ情報はファイルに連続的に保存されます。たとえば、A、B、C という 3 つのファイルがある場合、Faronics Anti-Executable では最初にファイル A にエラーログが書き込まれます。ファイル A が一杯になると、ファイル B に書き込み、最後にファイル C に書き込みます。ファイル C が一杯になると、ファイル A のデータが消去され、新しいログデータがそれに書き込まれます。
  - > ファイルのサイズ：各ファイルのサイズを MB で選択します。それぞれが 10 MB の 10 のログファイル（合計 100 MB）を作成することができます。

15.[OK] をクリックします。ポリシーが保存されます。



## Anti-Executable の設定

---

1 台のワークステーションをクリックして、[Anti-Executable クライアントの設定] を選択します。ワークステーションから Anti-Executable 設定が取り出され、以下のタブが利用できます。

- ステータス
- 実行管理リスト
- ユーザー
- 一時実行モード
- セットアップ



## ステータスタブ

[ステータス] タブにより、Anti-Executable 管理者と信頼ユーザーは、さまざまな設定、保護の有効化、無効化、Maintenance Mode の設定などが行えます。Faronics Core Console でワークステーションを 1 台選択し、[Anti-Executable の構成] を選択すると、ワークステーションの構成が自動的に取得されます。



### 製品情報の確認

[バージョン情報] ペインには、インストールされている Anti-Executable のバージョンが表示されます。新しいバージョンがある場合、「新規バージョンが利用可能です」と表示されます。詳細は、[更新] をクリックしてください。

Anti-Executable の評価版がインストールされている場合は、[有効期限] フィールドには、Anti-Executable の有効期限が切れる日付が表示されます。Anti-Executable では、Windows のシステムトレイに現在のライセンス状況について表示されます。

評価期間の期限が切れると、Anti-Executable でコンピュータが保護されません。Anti-Executable の有効期限が切れると、以下のアイコンが表示されます。



ライセンスキーは Faronics または Faronics パートナーに連絡して入手することができます。



## Anti-Executable 保護の有効化

インストール後に、デフォルトで Anti-Executable が有効になります。

保護が無効の場合に、ワークステーション上で Anti-Executable の保護を有効にするように通知させるには、[通知間隔] チェックボックスを使用します。

## Anti-Executable の Maintenance Mode

Maintenance Mode で Anti-Executable を実行するには、[Maintenance Mode] を選択して、[適用] をクリックします。Maintenance Mode になっているときに、追加または修正された新しい実行可能ファイルは、自動的に実行管理リストに追加されます。Maintenance Mode を終了するには、[有効化] または [無効化] を選択します。

[有効化] を選択すると、Anti-Executable で変更が記録されます。[無効化] を選択すると、Anti-Executable で変更は記録されません。



[キーボードおよびマウスの無効化] チェックボックスは、Faronics Core Console から Anti-Executable にアクセスしている間のみ利用可能になります。これは、コンピュータでキーボードとマウスが無効になっても、Faronics Core Console を使ってそのコンピュータをリモートで管理できるようにするためです。



コンピュータが Maintenance Mode で実行されている間は、Windows Updates のために十分な時間を取る必要があります。

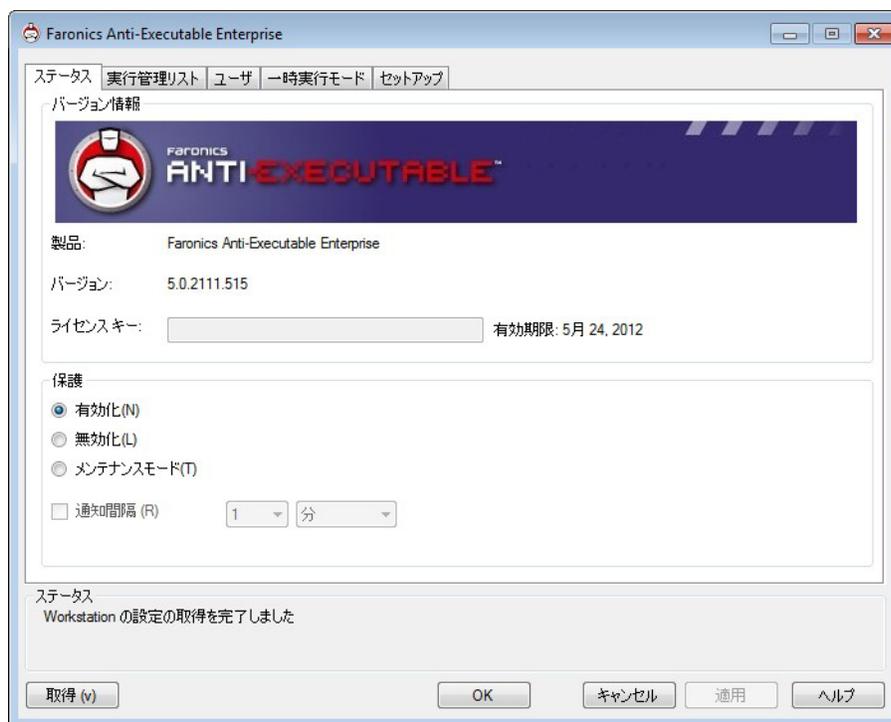


コンピュータが Maintenance Mode で実行されていて、保護が無効になっている場合、Maintenance Mode の間にワークステーションに対して行われた変更は実行管理リストに追加されません。



## Faronics Core Console から設定の取得

[ステータス] ペインでは、1 台のワークステーションの設定を取得して表示できます。ワークステーションを 1 台選択して、Faronics Core Console から Anti-Executable を起動すると、ワークステーションの設定が自動的に取得されます。

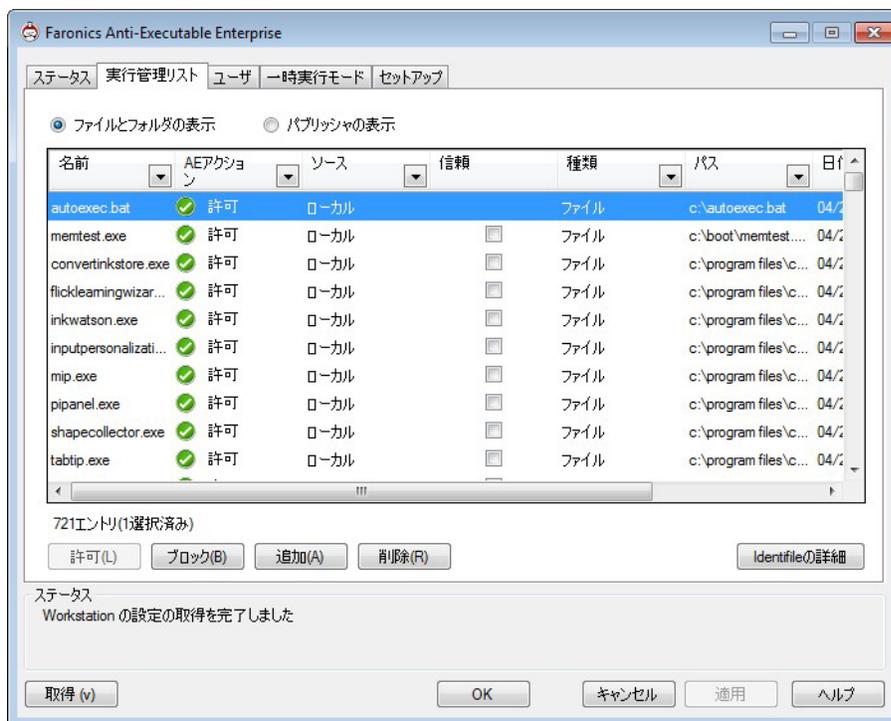


1 台のワークステーションを選択したときだけ、ステータスを取得することができます。



## 実行管理リストタブ

[ 実行管理リスト ] タブにより、ローカル管理リストまたは一括管理リストにある項目を許可するかブロックするかを指定できます。



Anti-Executable の動作を指定するには、以下の手順を実行します。

- [ ファイルとフォルダの表示 ] または [ 発行者の表示 ] を選択します。
- [ ファイルとフォルダの表示 ] を選択すると、以下の列が表示されます。
  - > 名前
  - > AE アクション
  - > ソース
  - > 信頼
  - > 種類
  - > パス
  - > 追加データ
  - > コメント
- [ 詳細 ] > [ 検索 ] をクリックして、利用可能なユーザーのリストを表示します。Anti-Executable 管理者は、ドメインユーザー（またはグループ）とローカルユーザー（またはグループ）を追加できます。Anti-Executable のリストにユーザーを追加するには、ユーザーまたはグループをクリックして、[OK] をクリックします。
- [ 適用 ] をクリックします。[OK] をクリックします。



## ユーザータブ

Anti-Executable では、ユーザーが利用可能な機能を決定するために、Windows のユーザーアカウントが使用されます。以下の 2 種類の Anti-Executable ユーザーがあります。

- 管理者ユーザー – 一括管理リスト、ローカル管理リスト、実行管理リスト、ユーザー、およびセットアップの管理と Anti-Executable のアンインストールができます。
- 信頼ユーザー – Anti-Executable と実行管理リストを設定できます。Anti-Executable のアンインストールは禁止されています。ユーザーまたはセットアップを管理することはできません。

デフォルトでは、Anti-Executable のインストールを行う Windows ユーザーアカウントが、最初の Anti-Executable 管理者ユーザーになります。その後、この管理者ユーザーは、既存の Windows ユーザーを、Anti-Executable に追加することができます。

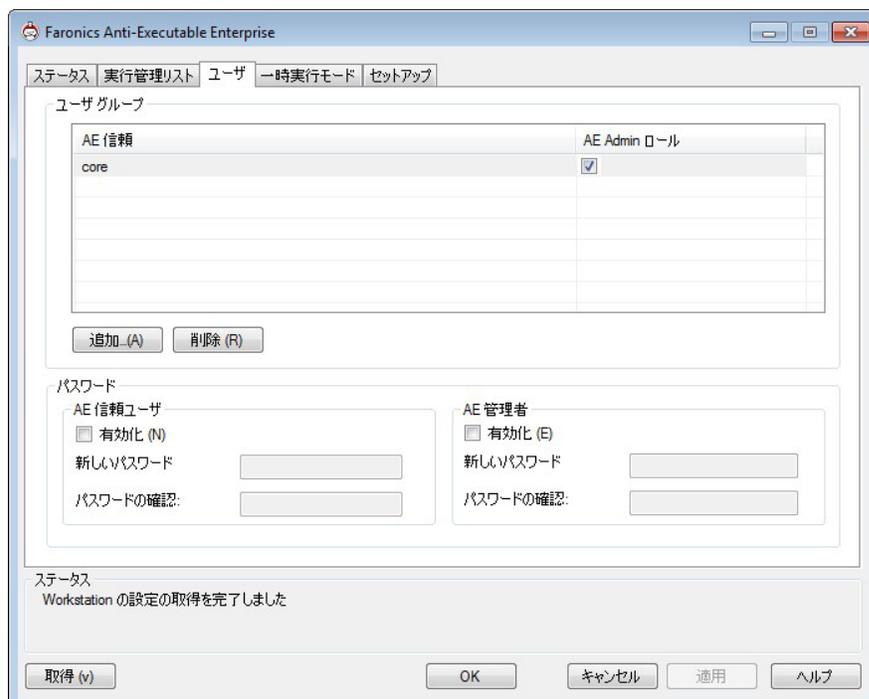
Anti-Executable が有効になっているときに、Anti-Executable 管理者または信頼ユーザーが無許可のアプリケーションを開こうとすると、[アラート] ダイアログが表示されます。

### Anti-Executable 管理者または信頼ユーザーの追加

すべての Anti-Executable ユーザーは、既存の Windows ユーザーアカウントです。ただし、すべての Windows ユーザーアカウントが自動的に管理者または信頼ユーザーになるわけではありません。管理者または信頼ユーザーではない Windows ユーザーアカウントは外部ユーザーです。

Anti-Executable にユーザーを追加するには、以下の手順を実行します。

1. Anti-Executable ウィンドウの上部の [ユーザー] タブをクリックします。





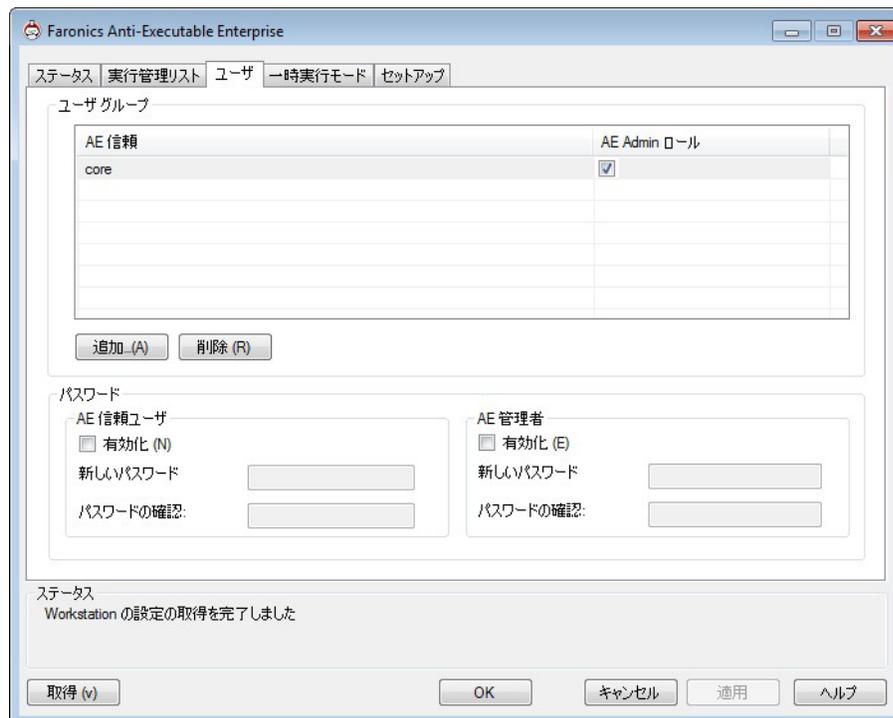
2. [追加] をクリックして、新規ユーザーを追加します。提示されたリストから、ユーザーアイコンを選択します。
3. リストが空の場合、[詳細] > [検索] をクリックして、利用可能なユーザーのリストを表示します。ログインしているドメイン管理者は、他のドメインユーザーを追加することができます。Anti-Executable のリストにユーザーを追加するには、ユーザー名をクリックし、[OK] をクリックします。
4. デフォルトでは、追加された各ユーザーは Anti-Executable 信頼ユーザーになります。新規ユーザーに管理者権限を与える場合、[Anti-Executable Admin ロール] チェックボックスを選択して、Anti-Executable 管理者として指定します。

## Anti-Executable 管理者または信頼ユーザーの削除

[ユーザー] タブをクリックし、削除するユーザーを選択します。[削除] をクリックします。これにより Windows ユーザーアカウントは削除されません。これでユーザーは外部ユーザーになります。

## Anti-Executable パスワードの有効化

保護の強化として、Anti-Executable では、各ユーザーグループにパスワードを付加することができます。パスワードは関連づけられたグループのメンバーのみに適用されます。パスワードを指定するには、[有効化] チェックボックスが選択されていることを確認し、[新しいパスワード] フィールドと [パスワードの確認] フィールドにパスワードを入力します。変更を保存するには、[適用] をクリックします。

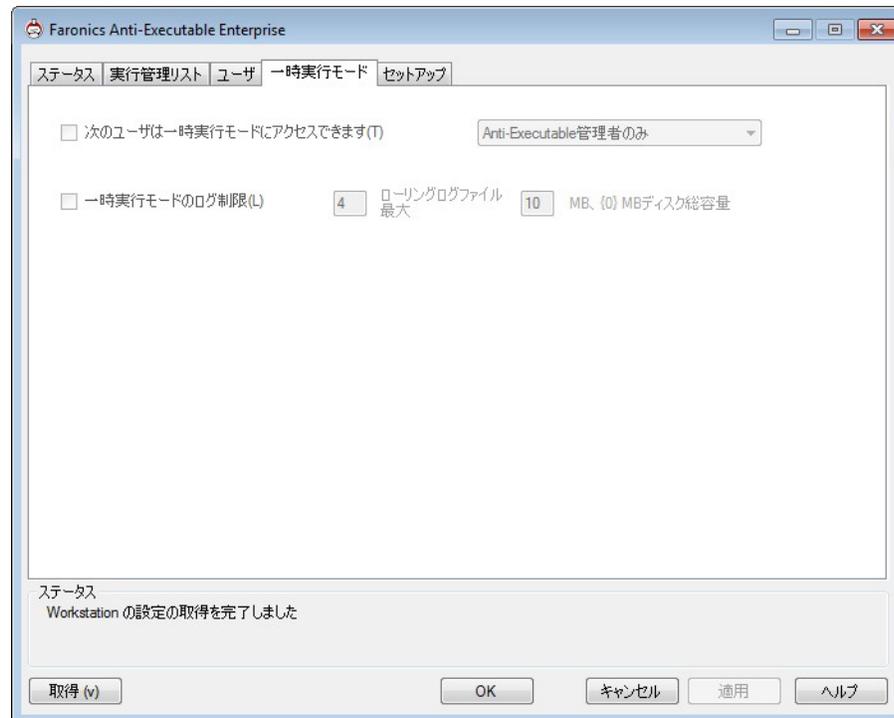




## [一時実行モード] タブ

一時実行モードにより、指定期間中、Anti-Executable からの操作なしで、ユーザーは実行可能ファイルを実行できます。この期間中は、制限を受けずに、実行可能ファイルを実行することができます。一時実行モードの期間が終了すると、Anti-Executable が有効になります。[一時実行モード] タブにポリシーの情報が表示されます。[一時実行モード] タブの設定はワークステーションでは変更できません。[一時実行モード] タブの設定はポリシーの一部なので変更できません。

以下のオプションが一時実行モードで使用できます。



- 次のユーザーは一時実行モードにアクセスできます：このチェックボックスを選択すると、特定のユーザーが各自のシステムで一時実行モードを有効にできます。[すべてのユーザー]、[Anti-Executable ユーザー]、[Anti-Executable 管理者のみ] を選択します。
- 一時実行モードのログ制限：このチェックボックスを選択すると、一時実行モード中にログファイルが作成されます。
  - > ログファイルの数：ログファイルの数を指定します（最大 10 ファイルまで）。ログ情報はファイルに連続的に保存されます。たとえば、A、B、C という 3 つのファイルがある場合、Faronics Anti-Executable では最初にファイル A にエラーログが書き込まれます。ファイル A が一杯になると、ファイル B に書き込み、最後にファイル C に書き込みます。ファイル C が一杯になると、ファイル A のデータが消去され、新しいログデータがそれに書き込まれます。
  - > ファイルのサイズ：各ファイルのサイズを MB で選択します。それぞれが 10 MB の 10 のログファイル（合計 100 MB）を作成することができます。



## 一時実行モードの有効化または無効化

一時実行モードは以下の方法で有効にできます。

Faronics Core から：

- 一時実行モードの有効化：1 台以上のワークステーションを選択し、[Anti-Executable] > [一時実行モード] > [x 分] (最長 60 分、24 時間、または 7 日のいずれかを選択) の順に選択します。
- 一時実行モードの無効化：1 台以上のワークステーションを選択し、[Anti-Executable] > [一時実行モード] > [無効] を順に選択します。

ワークステーションから：

- 一時実行モードの有効化：システムトレイで Anti-Executable アイコンを右クリックし、[一時実行モード] > [x 分] (最長 60 分、24 時間、または 7 日のいずれかを選択) の順に選択します。
- 一時実行モードの無効化：システムトレイで Anti-Executable アイコンを右クリックし、[一時実行モード] > [無効] の順に選択します。

[一時実行モード] が有効になると、ワークステーションのシステムトレイに以下のアイコンが表示されます。



一時実行モードが終了する 3 分前にメッセージがワークステーションに表示されます。

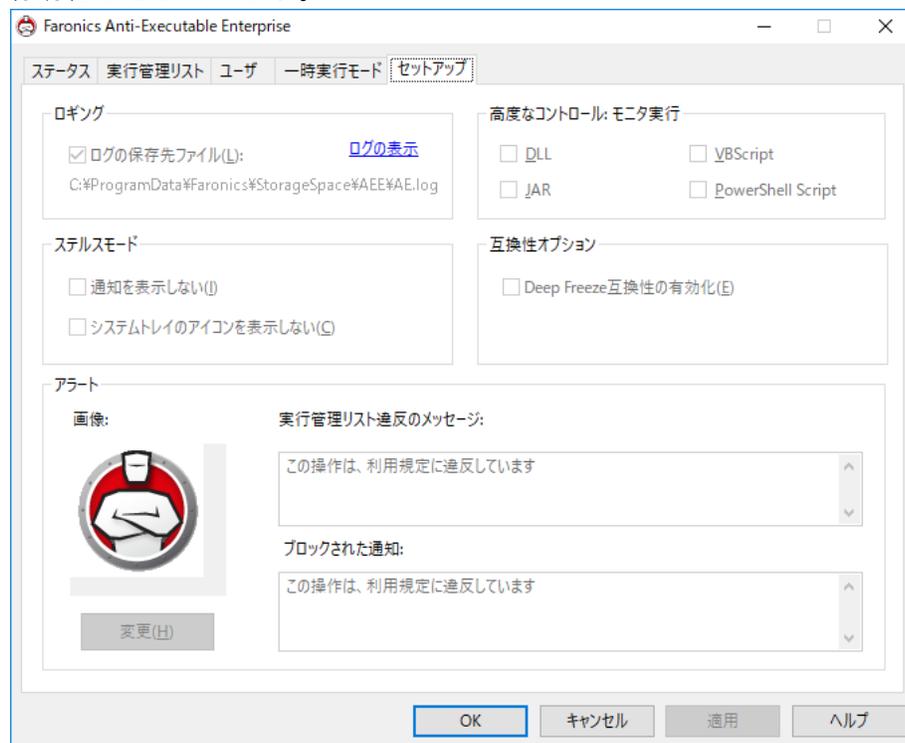


一時実行モード中は、Windows の自動更新は無効になります。



## セットアップタブ

Anti-Executable 管理者は、さまざまなユーザーのアクションをログに記録するためにロギングの設定、ステルスモードのさまざまな設定の適用、アラートの設定、互換性の有効化などができます。



### Anti-Executable でのイベントログの設定

ログファイルにイベントのログを書き込むには、[ファイルへのログの書き込み]を選択します。Windows 7 のログファイルの場所は、  
C:\ProgramData\Faronics\Storage Space\AEE です。

### DLL 実行のモニタ

DLL をモニタするには、[DLL 実行のモニタ]チェックボックスを選択します。このチェックボックスが選択されていないと、実行管理リストに DLL が追加されてもモニタされません。

### JAR 実行のモニタ

DLL をモニタするには、[DLL 実行のモニタ]チェックボックスを選択します。このチェックボックスが選択されていないと、実行管理リストに DLL が追加されてもモニタされません。



## VBScript 実行のモニタ

-VBScript ファイルをモニタするには、このオプションを選択します。このチェックボックスが選択されていないと、管理リストに VBScript ファイルが追加されてもモニタされません。

## PowerShell スクリプト実行のモニタ

PowerShell スクリプトファイルをモニタするには、このオプションを選択します。このチェックボックスが選択されていないと、管理リストに PowerShell スクリプトファイルが追加されてもモニタされません。

## Anti-Executable のステルス機能

ステルスモードは、システム上の Anti-Executable の存在を視覚的に示すアイコンなどを管理する複数のオプションです。ステルスモードでは、管理者は、Windows のシステムトレイで Anti-Executable のアイコンを非表示にしたり、アラートが表示されないようにするオプションを利用できます。

Anti-Executable がシステムトレイに表示されていない場合、管理者と信頼ユーザーは、Ctrl+Alt+Shift+F10 ホットキーを使って Anti-Executable を起動できます。

ステルス機能には以下のオプションがあります。

- 通知を表示しない：アラートが表示されないようにします。
- システムトレイのアイコンを表示しない：システムトレイの Anti-Executable アイコンを非表示にします。

## 互換性オプション

Anti-Executable は Deep Freeze と互換性があります。

### Deep Freeze 互換性



この機能は、コンピュータに Deep Freeze と Anti-Executable がインストールされているときにのみ有効になります。

Deep Freeze の互換性機能により、管理者は Deep Freeze と Anti-Executable の Maintenance Mode を同期させることができます。

[Deep Freeze 互換性の有効化] チェックボックスを有効にすることで、Deep Freeze が Maintenance Mode になると (Deep Freeze は、Maintenance Mode のときに Thawed で再起動します)、Anti-Executable も自動的に Maintenance Mode になります。

Deep-Freeze と Anti-Executable が同時に Maintenance Mode になるように設定することで、コンピュータに追加された実行可能ファイルは、実行管理リストに追加されるだけでなく、Maintenance Mode の終了後にコンピュータが保護されると、Deep Freeze によって保持されます。



Anti-Executable では、Deep Freeze の Maintenance Mode が終了する少し前まで Maintenance Mode が継続します。Anti-Executable の Maintenance Mode が終了すると、実行管理リストに新しい実行可能ファイルまたは更新された実行可能ファイルが追加されます。Deep Freeze の Maintenance Mode が終了すると、更新された実行管理リストで Frozen になっているコンピュータが再起動します。



Deep Freeze 互換性が有効になっており、Deep Freeze が Frozen になっている場合、Anti-Executable を Maintenance Mode に設定することはできません。これはコンピュータに加えられた変更が再起動によって失われるためです。

Anti-Executable が無効になっているときに、Deep Freeze が Maintenance Mode になると、Anti-Executable は無効の状態が続きます。

Deep Freeze によって開始する Maintenance 期間は、Anti-Executable で設定されているその他の Maintenance 期間よりも優先します。

Deep Freeze の詳細は、<http://www.faronics.com/deepfreeze> をご覧ください。

## アラートのカスタマイズ

Anti-Executable 管理者は、[アラート] ペインを使って、ユーザーが実行禁止ファイルを実行しようとしたときに表示されるメッセージと画像を指定することができます。以下のメッセージを設定できます。

- 実行管理リスト違反のメッセージ
- ブロックされた通知メッセージ

メッセージを入力するか、デフォルトのメッセージを使用します。ユーザーが実行禁止ファイルを実行しようとする、このテキストがすべてのアラートダイアログに表示されます。

[変更] をクリックして、ファイルを参照し、ビットマップ画像を選択します。選択した画像はアラートダイアログのテキストとともに表示されます。アラートメッセージには、以下の情報が表示されます。

- 実行可能ファイルの場所
- 実行可能ファイル名
- デフォルトまたはカスタマイズされたイメージ
- デフォルトまたはカスタマイズされたメッセージ

以下はアラートダイアログの例です。





## Faronics Core Console を使用した Anti-Executable レポートの作成

Anti-Executable には以下のレポートがあります。

- 稼働レポート：各ワークステーションの詳細なレポート
- 一時実行モードレポート：一時実行モードの間に起動されたすべての実行可能ファイルの詳細なレポート
- 最もブロックされるプログラム
- 最も違反の多いマシン
- グローバルレポート：一括管理リストへの追加 - ファイル
- グローバルレポート：一括管理リストへの追加 - 発行者
- グローバルレポート：ローカル実行リストへの追加

レポートを表示するには、ワークステーションを右クリックして、[レポートの生成] > [レポートを選択] を選択します。以下のダイアログが表示されます。

The screenshot shows a 'New Report' dialog box with the following fields and values:

Field	Value
Report Name	Temporary Execution Mode
Report Date	03/26/2012
Report From	03/26/2012
Report To	03/26/2012

- Anti-Executable には、以下の情報が表示されます。
  - > タイムスタンプ
  - > コンピュータ情報
  - > ユーザー情報
  - > イベント ID
  - > 説明
- 一時実行モードレポートには、以下の情報が表示されます。
  - > タイムスタンプ
  - > ファイル名
  - > ハッシュ



# コマンドライン コントロール

この章では Anti-Executable で利用可能なさまざまなコマンドラインコントロールについて説明します。

## トピック

---

[コマンドラインコントロール](#)



## コマンドラインコントロール

Anti-Executable コマンドラインコントロールにより、他社製の管理ツールおよび中央管理ソリューションによる Anti-Executable の制御が可能になり、ネットワーク管理者は Anti-Executable ワークステーションの管理をより自在に行うことができます。以下のコマンドがあります。



パスワードが設定されたコンピュータでコマンドを実行するには、`/PW=<password>` スイッチを使います。適宜、管理者または信頼ユーザーのパスワードを指定します。



[ ] のスイッチはオプションです。

機能	コマンド
保護ステータスの表示	<code>[path]AEC status [/pw=&lt;password&gt;]</code>
Anti-Executable を有効にする	<code>[path]AEC Protect On [/pw=&lt;password&gt;]</code>
Anti-Executable を無効にする	<code>[path]AEC Protect Off [/force] [/pw=&lt;password&gt;]</code> Anti-Executable が Maintenance Mode になっている場合、 <code>/force</code> というスイッチを使用します。
Anti-Executable のバージョンを表示する	<code>[path]AEC version /PW=&lt;password&gt;</code> ユーザーインターフェイスにはライセンスキーが表示されますが (存在する場合)、コマンドラインインターフェイスには表示されないことに注意してください。
Maintenance Mode を有効にする	<code>[path]AEC Maintenance [/duration=&lt;n&gt;] [/lock] /PW=&lt;password&gt;</code> スイッチなしでこのコマンドを使用すると、Maintenance Mode が有効になります。 <code>/duration=&lt;n&gt;</code> というスイッチを使用すると、Maintenance Mode が <code>n</code> 分間有効になります。 <code>/lock</code> というスイッチは、キーボードとマウスを無効にします。 <code>/lock</code> は、 <code>/duration=&lt;n&gt;</code> とともに使用する必要があります。



機能	コマンド
Anti-Executable のパスワードを 変更する	<pre>[path]AEC changePassword &lt;AEAdmin/AETrustedUser&gt; /NEWPW=&lt;New Password&gt; [/pw=&lt;Password&gt;]</pre> <p>すでにパスワードがある場合に、パスワードを変更しようとすると、その古いパスワードが要求されます。</p>
ローカル管理リス トに「許可」 としてフォルダ やファイルを追 加する	<pre>[path]AEC allow &lt;file or folder name and path&gt; [/pw=&lt;password&gt;]</pre>
ローカル管理リス トに「ブロッ ク」としてフォ ルダやファイル を追加する	<pre>[path]AEC block &lt;file or folder name and path&gt; [/pw=&lt;password&gt;]</pre>
現在のローカル 管理リストを表 示する	<pre>[path] AEC displaylcl [/allowed] [/blocked] [/xml] [/pw=Password]</pre>
ライセンスキー を更新する	<pre>[path]AEC updateLicense &lt;License Key&gt; /PW=&lt;password&gt;</pre>

## 説明

<ユーザー入力必須>

[入力任意]

[path]: 参照されているファイルが保存されているディスク上の場所

## コマンドラインの例

```
[path]AEC Protect On [/pw=<password>]
```

上記の例で、[path] が、Anti-Executable コマンドラインインターフェイスファイル (AEC.exe) へのパスになります。





# Anti-Executable のアンインストール

## トピック

---

[Faronics Core Console を使用した、ワークステーション上での Anti-Executable のアンインストール](#)

[インストーラを使った Anti-Executable Loadin のアンインストール](#)



## Faronics Core Console を使用した、ワークステーション上での Anti-Executable のアンインストール

---

Faronics Core Console を使用して、1 台以上のワークステーションから Anti-Executable を削除できます。Anti-Executable をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

1. Faronics Core Console を開きます。
2. Faronics Core Console の左側のペインにあるワークステーションアイコンをクリックします。
3. ワークステーションリストで、Anti-Executable を削除するワークステーション（複数可）を右クリックします。
4. [Anti-Executable] > [Anti-Executable のアンインストール] をクリックします。



選択したワークステーションから Anti-Executable がアンインストールされると、Faronics Core Console によりワークステーションが再起動されてアンインストールプロセスが完了します。



## インストーラを使った Anti-Executable Loadin のアンインストール

Anti-Executable は、Anti-Executable\_Console\_Loadin\_Installer.exe をダブルクリックしてアンインストールできます。セットアップウィザードが表示されます。

1. [次へ] をクリックして、アンインストールを開始します。



2. [削除] をクリックして、[次へ] をクリックします。

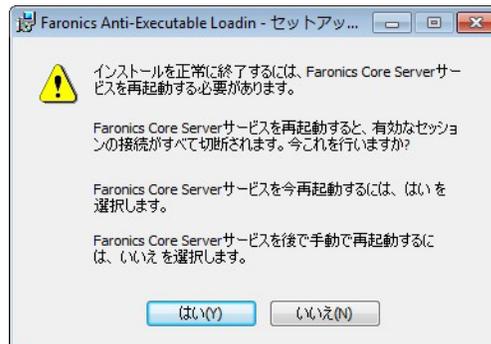




3. [削除] をクリックします。



4. Faronics Core Server Service を再起動するには、[はい] をクリックします。Faronics Core Server Service を後で再起動するには、[いいえ] をクリックします。



5. [完了] をクリックします。





## Anti-Executable Loadin のアンインストール (プログラムの追加と削除)

---

Anti-Executable は、[プログラムの追加と削除] を使用してアンインストールできません。そのためには、[スタート] > [コントロールパネル] > [プログラムの追加と削除] > [Anti-Executable Loadin] > [削除] を選択します。Anti-Executable Loadin をアンインストールすると、Faronics Core Console から、すべての Anti-Executable 管理機能が削除されます。個々のワークステーションから、Anti-Executable のインストールが削除されるわけではありません。

